

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	栃木県 小山市羽川524-1	電話:	0285-20-6211
自己評価作成日	平成29年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年10月20日

※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成29年 8月 7日	評価確定(合意)日	平成29年 8月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご入居者の方々とアットホームな生活を送れるよう支援しています。</li> <li>・個々の生活歴や性格等を把握し安心して穏やかな生活を送れるよう配慮しています。</li> <li>・気分転換を図る目的でドライブや外食行事を頻繁に実施しております。</li> <li>・天気の良い日は散歩に出かけ近隣の方とのあいさつを通して顔馴染みの関係になるよう努めております。</li> <li>・ご家族と連絡を密にとり、信頼関係を築けるよう努めています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>平成15年2月開設で、小規模多機能、デイサービスセンターが同一敷地内にある1ユニット2階建てのグループホームです。自宅での生活と同様に普段の生活が出来ることを心掛けながら経験豊かな職員が理念の実践に繋げており、職員自らデザインしたTシャツをユニフォームにし、明るく笑顔で支援に励んでいる。地域の夏祭りや運動会に参加したり、恒例の隣接事業所と合同のフレンド祭りを主催し、地域の方々を招待したりボランティアを受け入れるなど地域に溶け込んでいる。家族同士や職員との交流が深まるよう、年2回の家族会を実施している。車椅子利用者が増える中、浴槽に椅子型のリフト浴を設置し5名の利用者が使用している。薬を飲み込むのが困難な利用者には、薬剤師から助言を受け薬の形態による投薬の工夫などもしている。経験豊かな職員の介護、見守りの中で利用者が安心して暮らしている事業所です。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・ホームの理念、指針は玄関に掲示しております。職員はホームの理念を毎朝の朝礼時に唱和し、確認しながら実践を目指しております。	テーマに、「自発性自立性を高め、生活を楽しむゆたりの介護」を掲げ、朝礼で唱和するなどして共有している。何事も否定せず意欲を引き出すことを考えながら、自宅での生活と同様に生き生きと普段の生活ができることを心掛けながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として行事には積極的に参加し、地域との交流を深め、近隣住民の方々と職員とが顔馴染みの関係になれるよう努めています。	夏祭りや運動会などの地域行事に参加している。更に自治会行事のごみ拾いには職員が参加している。恒例の隣接事業所と合同のフレンド祭りに地域住民への案内状のポスティングなどで参加を促し多数の参加を得ている。更に職員の紹介でフラダンスや奇術の地域ボランティアを呼ぶなど地域との繋がりや交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年恒例の秋祭りには介護相談コーナーを設け、地域住民の方が気軽に相談できることと併せて、認知症紙しばい等の開催を実施し認知症への理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席していただける委員の確保に苦労しているのが現状です。顔馴染みの住民の方を増やすとともに民生委員などの自治会役員等の出席につなげられるよう努めています。	地域包括、自治会長、民生委員、駐在所員が委員となり、隣接事業所と合同で定期的開催されている。入居者状況、行事報告、現在の課題を報告し、質問意見も得られている。各委員には参加案内時に会議の議題を手渡ししており、家族へは開催日時の案内を郵送しているが、参加率の低さが課題となっている。議事録は委員、家族には郵送し、職員にも報告している。	自治会長の出席率を上げるように取り組むこと、会議の意義を周知すると共に参加し易い雰囲気作りを工夫して家族の参加実現を期待します。またより身近な課題を取り上げるなど工夫して、活発な意見交換ができる雰囲気づくりにも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営状況について日頃の報告や相談をしたり、認定変更や事故報告の際には行政窓口へ行き、直接担当者に会い報告やアドバイスをしてもらい、密な関係に努めています。	日常的には認定変更や事故報告で管理者が市役所に出向くことや郵送・FAXで市役所から情報を得るなどしている。昨年の実地指導では、いくつかの指摘を受け改善に向けたアドバイスも得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束をしないケアについて勉強し、全職員がその行為の弊害を理解し、実際の入居者処遇につなげています。	職員会議や朝礼の時など折りに触れ管理者が身体拘束の事例など説明し、身体拘束のない介護に取り組んでいる。夜間ベッドからの転倒のリスクなどにも家族の了解を得て、人感センサーを設置し見守り、寄り添いの対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の項目として取り上げ勉強したり、毎月の職員会議の際にもケース会議を開き、話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小山市の状況について、認知症施策総合推進会議の情報を中心に共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時には十分な時間を設け、ご家族を含めグループホームという事業所のサービス内容をについて、できること・できないことを説明し納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時には職員との親睦を深め、要望を気軽に伝えて頂けるよう努めています。また、運営推進会議には、家族に出席を依頼し日々の処遇や運営に関する意見や要望を発言していただく機会としています。	家族訪問時などを意見を聞く機会ととらえているが、運営に関する意見は少ない。家族同士や職員との交流が深まるよう、家族会を年2回開いており、今回は日本料理店で開催し、車いすでの移動など通常の外食の様子を見て頂いた。また毎月の便りに事業所内での様子を撮った写真を同封するなどして暮らし振りを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例職員会議において現場職員主導の内容で開催し、議題も事前に職員間で話し合い決めています。	職員会議は管理者が司会で、月1回全員参加で開かれ、行事や利用者の健康状態を中心に話し合っている。現状のベッドはオムツ交換などの屈む作業が大変であるとの職員意見により、2台のベッドをベッド床が上下する電動ベッドに入れ替えた。今後台数を増やしていく予定としている。職員間で羽川独自のユニフォームをデザインし、それを着用することにより職員間の一体感を高めている。	毎年上期下期に分けて事業所の年度目標を立て、実施具体案を検討し、達成度の評価をしている。職員会議の議題にするなどして、全員での取り組みに展開することにより、目標の達成に繋がることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期(6ヶ月)毎に実施する人事考課において、職員と対話する時間を作り、勤務状況や個別のモチベーションを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修参加のほかに、外部研修についても積極的に参加を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の主任会議において、現場レベルでの情報交換や、自らの事業所の良い点・改善点を把握し、処遇につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設のデイサービスや小規模多機能施設から入居される方が多い為、利用時の状況を実際に観察したり、直接会う機会を作って顔なじみになり、話をよく傾聴するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から、直接家族とは丁寧な面談を行う事で不安なことや要望などを把握できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談時の話し合いなどから現状の要望を見極め、グループホームでの支援が適当なのかを判断し、必要によっては併設の居宅支援事業所への紹介もしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴をよく把握し、現在のADL状況で負担のない範囲で日常生活のできること(掃除・洗濯物たたみ)を職員とともにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の面会に気軽に来所いただくだけでなく、連絡を密にとるよう心掛け、本人の現状を報告し、家族の方のアドバイスや直接の支援をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食やドライブなど外出する際には、自宅周辺の馴染みの場所を選定し、本人が昔の回想をできるような機会を作れるよう努めています。	毎週訪問する家族やたまにしか訪問しない家族もあるが、訪問時はもてなしに気を使い家族との話す時間を有効に活用して、楽しいひと時を過ごしてもらうように努めている。普段の会話や家族訪問時に馴染みの場所などを聞き、馴染みの場所にドライブすると、利用者が昔のことを口にする場面などもある。また馴染みのスーパーでの買い物も楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係をよく把握し、リビングの座席には十分配慮しています。入居者の方のその時の状態により位置を変えたり、トラブルにならないよう職員が見守りをしながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去するにあたり、その後のサービス紹介や、退去後の相談や支援はケースにより丁寧に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人・家族の要望に対応しています。ADL維持の希望があるケースには、外部のリハビリ施術サービスの紹介をし実際にサービスを受けています。	意思表示の難しい利用者は2名おり、生活歴やその時々表情・仕草などから推察し判断している。また今までの生き方を聴き、何事も否定せず、意欲を引き出すように努めている。夜のテレビ番組を愉しむ利用者にも消灯時間など、特に制限をせず自由に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前面談の際にこれまでの暮らし方の話をお聞きしたり、家族の面会時によく話をさせていただき生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の援助や本人の生活状況をよく把握し、状態の変化に留意しています。必要に応じて協力医に相談し対応の指示を受けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議において個別のケース会議をしています。援助の方向性を話し合い必要に応じて、協力医や担当薬剤師の助言も参考にしています。	原則介護保険更新時期(年1回)に計画の見直しをしている。日常の個人記録や生活をもとに全員出席のケース会議で話し合い、個人のまとめを記録して、モニタリングに繋げている。それらの記録をもとにし、状況に応じて介護計画の見直しを実施している。家族来訪時などに計画の説明を行いました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のちょっとした事や普段と違った様子などを具体的に記録しています。朝夕の申し送りの際に報告し、情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社内において調剤薬局を運営しているメリットを生かし、内服に関して薬剤師から副作用や服薬の仕方など情報をもらい処遇に活かしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事には、事業所近隣の場所を利用したり、散歩時には近くの商店に行ってみたり本人の生活の楽しみに配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	安心して健康管理ができるよう、入居時に本人・家族とよく話し合ったうえ、ホームの協力医の支援か今までのかかりつけ医かを選択していただいております。	バイタルや健康状態を記載した受診情報に基づき、利用者8名が月2回の協力医の訪問診療を受けている。1名は従来のかかりつけ医で受診し、家族が対応している。訪問診療の受診状況は変化があれば家族に電話で伝えている。薬の形態による投薬の工夫を薬剤師に相談したり、二重チェックなどして誤薬を防いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師はいない状況なので、必要に応じて併設の事業所看護師に援助を依頼しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中より病院へ面会に伺い、家族や病院関係者との情報交換に努め退院後のホームでの生活が安心して送れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応については、事業所としてできる対応をしています。今後の可能性も含め、看取りについて学習する機会を作っていますが、訪問看護の導入など問題点があるのが現状です。	急変は入居時適切な医療機関で対応すると説明し、当面は事業所内での終末期看取り対応は考えていない。現在も協力医の協力が得られていないこともあり、看取りの対応は実施していない。急変時には病院への搬送で対応し、重度化の兆しが見えたら主治医の判断を参考に早めに本人家族との話し合いを持ち対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や、消防署の職員による救急救命法の講習を受け、AED取り扱いや緊急時の実践的な対応の仕方を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練では併設の事業所との合同訓練と、単独での訓練を実施しました。実際にホーム2階から滑り台での避難や、避難所になっている羽川小学校へ車での避難などを行いました。	平成28年9月と29年3月に避難訓練を実施している。9月の訓練は消防署の指導の下に、隣接の小規模、デイサービスセンターと合同で実施し、地域包括と近所の方2名の見学を受けた。消防署から大声で火事を伝えることや緊張感を持って訓練を実施することなどの指導を受けた。3月の訓練では2階からの滑り台を試したり、避難指定場所の羽川小学校への移動も実施した。約2日分水やおかゆの食品備蓄もしている。	訓練で明らかになった不都合点や課題について記録を残すと共に、反省及び対応を検討して、次の訓練に活かせるような取り組みに期待します。更に、市からの指導事項でもある夜間想定訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活のペースを最優先にし、職員は適当な距離感をもって援助するよう心掛けています。自然な暮らしができるよう、その時の状況に合わせて対応をしています。	年長者であることを意識して人格尊重に努めている。呼びかけは、姓に「さん」付けを基本としており、視線を合わせて向き合うことを大切に対応している。利用者同士のトラブルなどで人格を損ねないようにテーブル座席の位置を配慮するなど利用者本位に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食では、入居者の行きたいお店、食べたいものを選んでいただいております。日常では、天気の良い日に外へ行きたい方は散歩に出かけたりして、自らの希望が伝えられるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを最優先に、臨機応変に対応できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ本人に洋服を選んでいただいております。場合によっては職員が毎回同じ服にならないよう介助や声掛けするようにしています。また、毎月の近隣理髪店の出張サービスも利用していただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で育てた野菜を一緒に収穫し、料理に取り入れることで食事が楽しみになるよう努めています。食器の後片付けやテーブル拭きなど進んで手伝われています。	専門業者の調理済みの副食を温めて提供し、ご飯と汁物を事業所で調理している。事業所の畑で育てたトマト、ナス、ピーマンなどの野菜を使うこともある。箸を使うのが困難な利用者には副食をどんぶりものに仕立てて、介助無しでスプーンで食べることが出来る様にするなどの工夫をしている。食後は食卓を拭く元気な利用者もいる。外食は原則月1回実施し、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量チェックを行い必要量を確保しています。水分がなかなか摂れない方には、お茶ゼリーにしたりして工夫しています。また、協力医による3ヶ月に1回の血液検査などにより、栄養状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の方が口腔ケアをしています。歯科衛生士による歯磨き指導の下、義歯の手入れの仕方や、歯間ブラシを使用したりしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら個別の排泄パターンの把握に努めています。トイレでの自然な排泄ができるよう、さりげない声掛け誘導をしています。	昼間はリハパン8名、オムツ1名で、夜はオムツが4名になる。自立排泄は1名で、他は排泄チェック表利用した支援を行っている。体操、散歩など活用し、状態の維持に繋がるように支援している。夜は起き出す利用者には排泄介助をすると共に、2時間に1回の見回りの中でパット交換もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医、本人・家族と相談し、内服薬の調整なども支援しています。便秘予防のためにレクリエーションに体操を取り入れ、体を動かす時間を増やしたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴をしていますが、体調や気分によって柔軟に対応しています。また、気分転換を図るため、いろいろな入浴剤を使用しています。ADLの低下に対応してリフト浴も実施しています。	入浴は週3回午後の時間帯を基本として、脱着衣、入浴介助と2名体制で実施している。椅子型のリフト浴を設置し、5名の利用者が使っている。入浴剤を使用し、入浴中は気持ちが良いと言葉も聞かれる。入浴を拒否する利用者は居ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の昼寝など本人のペースにまかせていますが、昼夜逆転など睡眠サイクルの乱れにならないよう日中の散歩や、レクリエーションに参加してもらい、夜間入眠しやすいよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内薬剤師と連携を図りながら、症状の変化に留意し支援しています。また、状態の変化に伴い協力医に相談し指示をいただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や掃除など個々の生活歴を活かしながら支援しています。また、昼食の外食だけでなく、おやつデザート外食に出かけたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な近隣周辺の散歩には、その都度の希望に対応しています。また、定期的な外食や花見を目的としたドライブでは、季節感を味わってもらえるよう支援しています。	気候が良い時期などには、事業所周辺を回る時もあるが、車椅子利用者が増えていることもあり、日常的には事業所の建屋前や東屋近辺での日光浴を中心に対応している。お花見や住んでいた所へのドライブ、外食などで外出する機会も設けている。家族が訪問時に一緒に外出する利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の外出行事を実施し、可能な限りお金を使うという生活行為を継続しています。また、財布がないと不穏になる入居者の方には、家族の了解のもと、財布と少額の現金を所持してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に応じて積極的に支援しています。特に家族の声を聞くことにより、安心して過ごすことができると考えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節的な彩光に配慮して、夏にはよしずやすだれを活用しています。日中の大半を過ごすリビングは、温度や湿度管理に配慮しています。また、季節に添った貼り絵など展示しています。	花が飾られた玄関を抜けると利用者が日中過ごすリビングで、明るい日差しが差し込む大きな掃き出し窓になっている。室内は壁に皆で制作した花火の大きな切り絵がある位で、落ち着いたあるシンプルなリビングとなっている。床や廊下はきれいに清掃されており、利用者も一緒に清掃することがある。1階と2階の移動用にエレベータが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった座席の位置はありますが、いつもとは違う席で食事をしたり、お話ししたり、その時の状況で対応しています。リビングから離れた場所にも椅子を置き、いつでも座れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についても本人のADL状態や相性などに配慮し、家族と相談の上で決定しています。また、使い慣れた家具や小物、家族の写真などを置き安心して過ごせるよう支援しています。	1階に3室、2階に6室の洋室の居室があり、ベッド、整理箆箆が備え付けられている。整理箆箆の上には、家族の写真を飾ったり、ぬいぐるみを置くなど利用者思いおもいに使っている。壁にはカレンダーや誕生日記念日の写真など飾っている利用者もいるが、持ち込みの少ない利用者が多い。職員による清掃が行き届き本人が快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	約半数の入居者の居室には、人感センサーを設置しています。転倒事故など未然に防ぐ環境整備に努めています。		